

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



Child Supporter
チャイルドサポーター
**300人の子どもたちに
サポーターが必要です**
P.6にカンボジアでの活動報告

ハンガーゼロ ～災害でもその備えが必要です～

日本国際飢餓対策機構 広報主任 鶴浦弘敏

6月18日の大阪北部地震で被災されましたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

大阪府で初の震度6が記録されました。関西地区では1995年の阪神・淡路大震災(最大震度7)を思い起こしますが、地震の強さが6弱までであったことで、あの当時のような大規模都市災害にはあたりませんでした。地震翌日に大阪事務所から2つのチームで高槻、茨木市に入り被害状況を確認しましたが、被災者の一人は「阪神淡路の時とは揺れが違いました。最初にドンと突き上げられ、それから横にぐっと引っ張られるような感じで、とても立っていただけませんでした」と地震の恐怖を語っておられました。

通学路で小学生が犠牲になったことに心が痛みます。大人の安全に対する怠りがありました。中学校で管理職をしている先生によれば、古い校舎で行う「耐震化工事」の第一の目的は、倒壊までの時間を稼ぎ、生徒に逃げる時間をつくることだそうです。

関西地区では、もう何年も前から「南海トラフ地震」の備えが叫ばれ、防災訓練も行われていました。しかし実際は、安全確保の即時の対応や、ライフラインや交通網の

機能停止に対して、混乱された方が多かったのではないのでしょうか。身近なところでの事前の安全対策や状況判断では私も大いに反省させられ、自分自身の課題も浮き彫りになりました。関西地区の方々に限らず、それぞれのところで防災への備え、「その時どうするか」を再確認していただきたいと思います。自分の身の安全確保ができていれば、いち早く助けを求めている人のところに駆けつけることもできます。

当機構は、飢餓・貧困のために助けを必要としている人々の支援の一環として、企業パートナーとの連携による「ハンガーゼロ自販機」の設置を全国で進めています。ドリンクを買っていただくと、子どもたちの給食など支援の募金になります。それだけではなく、この自販機にはミネラルウォーターとパン缶が無償で提供される備蓄機能を持つタイプもあり、今回の地震でも臨時休園になった保育園で備蓄していたパン缶が役に立ったそうです。ライフラインがストップしたとしても、人間にとって水分補給と食べることはストップできません。防災の備えと共に自販機もぜひご利用ください。それもわたしから始める、ハンガーゼロです。

2018年4月と5月にチェンマイで国際飢餓対策機構の主だった関係国の代表が集まり、農業を通じた地域支援の可能性と仕組み作りについて話し合う会合があり、日本からも数名が参加しました。



農業を通じた支援の可能性に期待

報告：総主事 近藤高史

麻薬栽培からの脱却

タイ北部の都市チェンマイは、ミャンマー・ラオスと国境を接し、30年近く前までは高地山岳部に住む貧しい少数民族による麻薬の栽培が半ば公然と行われていた地域への玄関口に当たる町です。

アカ族の村と農場を訪問

チェンマイから国境に向かって車で4時間ほど北上するとチェンライという町に出ます。この近隣に多く住むアカ族の村と農場を訪ねました。

ここでは化学肥料を一際使わない「有機農法」や、有機肥料（家畜の糞など）すら使わない「自然農法」により、お茶、コーヒー、その



他野菜、果物が栽培されていました。豊かな自然の恩恵とタイの国家的政治主導による麻薬撲滅への努力が実を結び、農業による生活の自立がなされている姿を見て感激しました。ただしそれは同じアカ族でも、国境を挟んだミャンマーやラオス側では状況はかなり違うとのことでした。

日本の農業にもっと関心を

日本全体の食料自給率は約39%（農林水産省によるカロリーベース統計2014では主要先進国では最下位）と言われていますが、東京や大阪といった大都市に限るなら、東京は1%、大阪は2%です！

6月に大阪北部で起きたような強い地震がより広範囲で起きたなら、長期間物流が止まって食料不足による餓死者が出るような事態に陥ったとしても不思議ではあり



農場で働くアカ族の青年と近藤

ません。海外からの輸入に頼らない自国の農業のあり方について、私たちはもっと関心を持つべきではないでしょうか。

世界で飢餓に直面する人々のためにできることを考えることは、すなわち私たちもまた豊かで持続的な社会を築くためになすべきことを考え行動することと一つであることを教えられました。



お茶の加工場にて

【タイ王国】 安達燎平

良い関係から良い活動に

私はこの5月からタイ北部でFH（国際飢餓対策機構）のパートナーにより行われている「アカ族農家の収入向上プロジェクト」に新人研修を兼ねて参加させていただきました。

そこはタイ、ミャンマー、ラオスの国境が隣接する高原で、世界最大の麻薬生産地です。かつてはゴールデン・トライアングルと呼ばれていましたが、タイでは前国王の政策でケシ栽培は禁止され、代わりにコーヒー豆や野菜、果物の栽培が奨励された結果、コーヒーはアジア有数の大規模生産地になりました。

ところが、ここで暮らすアカ族の農家の人々は貧困に苦しんでいるのが現実です。生産した農作物の引きとり先の工場やスーパーマーケットが不当に安い価格で買い叩くため、収益が極めて低いのです。

このプロジェクトでは、収益向上を願うアカ族の農家に対してオーガニック（有機）栽培を行うことを条件に、農作物をこれまでの2倍の価格で引き取り、香港などの海外市場に輸出し、そこで出た利益もアカ族農家に還元して収入向上に結びつけています。

私はこのプロジェクトに参加させていただいて人との関わりの大切さを知りました。FHの行う支援は、人々と良い関係を作ることから始めます。市場に足しげく通い彼らの名前を覚えて、どんな野菜を作っているのか、何人家族なのかなど、会話を通して信頼関係を築いていきます。生産者とバイヤーあるいは支援者と被支援者というような関係ではなく、友人となって接する中で、彼らの心も開かれ、そこで初めて本当に良い働きが生まれてくることを学びました。



▲養殖の食用ガエルです！



茶葉の茎を取る農民▶



アカ族の子どもたちと（チェンライのお茶農家にて）



【コンゴ民主共和国】 鶴若仰太 人を前に向かわせる源

Hands of Love Congo(以下、HOLC)は、貧しさの中で闘っている人々に、多くの愛の手が届くようにとJIFHを通してコンゴ民主共和国に立ち上げられた

NGO団体です。

HOLCの活動の1つに“フィードリングプログラム”があります。ASOMIPという孤児の養護団体と協力して行っています。HOLCは週に1度、この団体の日曜日昼の給食をサポートしています。この日は煮豆とご飯。(写真▲)



その中に“マイシャ”という15歳の女の子がいます。(写真▶)彼女は5歳の時にこの団体に引き取られました。両親に捨てられてから、路上で寝るような生活をしていたそうです。その時のことを彼女は「暗く、孤独だった」と短く振り返ります。



家庭によって理由は様々ですが、仕事もなく、飢えや貧しさで、子どもを養うことが出来なくなり捨ててしまう、そんなケースが多いようです。

「初めてここに来て、カトリーヌさん（ASOMIP代表）に会った時、お母さんが出来たと思えました。自分以外の存在と繋がる事が出来ました。そのことだけでも嬉しかったです」と話す彼女の夢は、自分と同じような境遇にある子どもたちを助けられる存在になることだそうです。“独り”だった彼女の瞳は今輝いています。希望がどれだけ人を支え、立ち上がって前に向かわせるのか、その大切さを痛感しました。



▲鶴若スタッフとHOLC代表のジェローム駐在員



コンゴ民主共和国



コンゴの子どもたちと

温かいご支援を感謝いたします

FHエチオピアの「孤児及び貧困の中にある子どもたちに明るい未来を」プロジェクトについて、昨年ご紹介したところ、大変多くの方々から温かいご支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。アムハラ地方のレイ・ゲイント、タック・ゲイント、シマダの3地域で実施されているこのプロジェクトの近況(3月～5月)が届きましたのでご報告させていただきます。



2017クリスマス募金報告
6,837,081円
2018年6月18日付



貯蓄プログラムの住民説明会

子どもたちと共に生活も変化していく喜び

2018年1月1日に第4期に入ったこのプロジェクトには、1,400人の子どもたちとその家族が参加しています。これまでの成果を踏まえて、第3期に引き続き「孤児および貧困の中にある子どもたちの家庭の生活の安定」という目標に向かって多方面から取り組んでいます。

食料支援と栄養改善

日本の皆さまをはじめ世界中から寄せられた温かいご支援のおかげで、プロジェクトに参加している子どもの家庭に、家族一人当たり15キロの小麦と1.5キロの豆を毎月配給(写真①)することができました。



医療支援

孤児や極貧家庭の子どもたちは病気になっても治療を受けることができず、治療可能な病気のために命を落とすことも珍しくありません。このプロジェクトでは、公立医療機関と連携し、家の近くの医療機関ですぐに治療を受けられるようなしくみを整えています。また、HIV/AIDSを罹患している子どもは再発性感染症に罹りやすいため、特にしっかりとケアされています。おかげで88名の子どもたち(内女子40名)が治療を受けることができ、今は元気になっています。

虫下し

腸内寄生虫を駆除し、再発性感染症に罹りにくくするため、プロジェクトに参加している子どもやそのきょうだい等3,458名(内女子1,865名)の子どもたちに虫下しが投与されました。

教育支援

子どもが学校の授業についていけなくて中途退学することがないように、補習クラスを実施して就学率と成績の向上を目指しています。1112名の子ども(内女子593名)が補習クラスに参加し、それまで成績が悪



ボランティア先生のトレーニング

かった子どもたちの成績が向上しました。129名（内女性34名）の先生が週末にボランティアで補習クラスを受け持っています。

家庭訪問とカウンセリング

プロジェクトに参加している子どもたちは、親を亡くしたことによる社会的・心理的影響を強く受けています。そのため、食料支援や教育支援などに加えて、心のケアがとても重要です。ソーシャルワーカーやボランティアが1,303名（内女子620名）の子どもたちの家庭を訪問し、指導や助言を与えて励ましています。

家庭の収入向上支援

第1期から続けてきた収入向上のための貯蓄グループですが、資本金が小さいため、期待したような成果が出ていませんでした。そこで各コミュニティや関係省庁と綿密な協議を重ねた結果、93あった自助グループを3つの共同組合に再編することになりました。

プロジェクトが実施されているタック・ゲイント、シマダ、レイ・ゲイントの3地域の合計で798名（男性79



名、女性719名）が共同組合のメンバーとして登録されました。プロジェクトによって拠出された基金と自分たちの貯蓄を用いて、リボルビングローンの貸付が始まり、条件に適合した332世帯に1,211,000ブル（約500万円）が貸し出されました。このローンの利用で経済的な必要を満たすだけでなく、収入を生み出す様々な活動に従事できるようになりました。

成績が上がり、友だちも沢山 できて学校が楽しくなった！

～支援に感謝するハブタム～

幼い時に父親を亡くし、食べることに事欠くようになったハブタムは、8歳の時に第2期のプロジェクトに参加しました。プロジェクトに参加したことで、少しずつ生活が改善し、補習クラスのおかげで成績がぐんぐん上がりました。自信を持ったハブタムは、学校が楽しくなり友だちも沢山できました。14歳になった彼女は、「このプロジェクトがなかったら、学校に通うことができず、私の人生は全く違ったものになっていたと思います。エチオピアでは、今も多くの子どもが支援を必要としています。どうか引き続きプロジェクトを支援して、暗く絶望的な未来から子どもたちを救ってください。」と訴えています。



住民ボランティアトレーニング

人々が自分たちの力でプロジェクトを持続可能にしていくためには、住民ボランティアの育成は欠かせません。孤児や貧困の中にある子どもたちをケアし、その家庭をサポートするためのトレーニングを129名（内女性79名）の住民ボランティアが受講しました。

応援してください

このプロジェクトの第4期は始まったばかりです。5年間に亘るこのプロジェクトをJIFHは今年も支援します。エチオピアで、また世界中で、飢餓と貧困の中に置かれている子どもたちが明るい未来を取り戻すためには継続的な取り組みが必要です。ぜひハンガーゼロサポーターとなって、JIFHの取り組みを継続的に支えてくださいますようお願いいたします。ウェブからもお申し込みできます。

300人の子どもたちに サポーターが必要です

サポーターさんとの出会いを待っている子どもたちがいます。チャイルドサポーターの支援によって地域が変わり、1人の子どもに将来への希望が与えられます。支援を受けているカンボジアの子どもの声をお届けします。



彼女の成長は家族の励ましに



ローウン・スレヤさん (17歳)

カンボジア・トク リック中学校3年生

学校を卒業して私の夢を実現したい

我が家は4人家族です。父は農業をしていてロン・ローウンといひ40歳、母は昨年心臓ガンで亡くなりました。弟のルムは13歳、チャンヒア小学校の6年生です。未っ子のラスは11歳、同じ小学校の4年生です。

FHが関わる前は、家族の健康の問題で私たちは困難の中にありました。不衛生な生活の上、食べる物も不足していたのです。1年の内数ヵ月間、ほとんど食べる物がなかったことを思い出します。私の両親は、家族のために鶏を市場で販売して一生懸命働いていましたが、十分な収入を得ることができなくて、ときどき近所の人にお金を借りていました。そんな貧しい家族でしたが、お互いに愛し合っていて争ったことは一度もありませんでした。

収入向上で衛生面も改善

FHの活動に参加するようになり、知識や技術が増えました。私

たちの家族はたくさんの励ましと刺激を受けて、家計のために鶏と豚を育て、また家庭菜園で野菜を栽培するようになりました。色々なことを通して収入が増えました。さらに衛生面でも、家の周りをいつも清潔にするようにしています。私たちは浄化した水を飲んでいす。浄化していない水を飲んだら、病気なることを知ったからです。父が貯蓄グループに参加するようになって、収入を増やすためのお金を借りることができました。またFHが私をボランティア教師として選んでくれました。子どもクラブのボランティア教師になってから、学習計画を立て、地域の青年や子どもたちのために頑張って教えています。青年の貯蓄グループの活動にも携わっています。貯蓄活動の価値に気付き、興味深いと思いました。私はとても幸せです。多くのことを訓練の中で学び、父も貯蓄グループが好きで、大人のグループに参加して

貯蓄をしています。私は将来大学に進学するための貯蓄をしています。学校を卒業して、夢を実現させたいです。

私が願うこと

村にいるすべての子どもたちが高校を卒業して、大学に行けるようになって欲しいです。家族で助け合って、両親が外国や遠くの町へ出稼ぎに行かなくてもよくなれば良いと思います。また銀行から高額な借金をしなくても、村の貯蓄グループから低金利ローンが利用できるのて、その制度が活発になって欲しいと思います。私はこれからもこの村でボランティア教師として、FHから学んだ知識を村の人たちに教えていきたいです。すべての人たちが地域をもっと良くなるようにと願い、色々な訓練に参加してほしいと願っています。

2つの支援方法があります

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、その地域で行われる活動をご支援いただけます。

月々4,000円

子ども1人を支援することができます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動をご支援いただけます。

1,000円～

月々または自由なタイミングで支援できます。



お申し込みは最終ページの申込み欄またはウェブサイトより
お問い合わせは☎072(920)2226 チャイルドサポーター事務局へ

「わたしから始める、世界が変わる」 の言葉に押し出されて

「わたしから始める、世界が変わる」というJIFHのキャッチコピーに後押しされ、私たちが「ハンガーゼロ・アンバサダー」として働きを担わせていただくきっかけとなったのは、娘がJIFHのスタッフとして働き出したことでした。

娘は札幌に生まれ育ち音楽大学へと進みましたが、あるきっかけから世界の飢餓対策問題に関心を持ち、農業研修やJIFHのファシリテーター・トレーニングキャンプの参加を経て、働きに加えられました。この情熱を持った生き方をするわが子を見て、学校教員生活から定年退職した私たちに、何かできることがあるだろうか、と祈っていました。

自宅を支援者間の連絡事務所に

「わたし」がおかれている北海道は、最南端の渡島おしま（松前町）から最北端の宗谷（稚内市）までは、東京から秋田県まで、また最東端の根室のさっぽろみさき（納沙布岬）から最西端の桧山（江差町）までは、東京から岡山県までの距離に匹敵します。

そのような広大な北海道において事務所がない中、支援者の方々と顔を合わせてご挨拶することが難しい



世界食料デー第1回札幌大会にむけて開かれている実行委員会

のではないかと、そこに何か力添えができないかという思いが与えられました。

自宅をハンガーゼロ・北海道連絡所として提供し、まずは札幌近郊の教会訪問、北海道全域にパンフレット・飢餓対策ニュースの配布、講演や出前授業の



取り次ぎ、高校・大学への自動販売機設置の案内など、できそうなことから少しずつやっつけていこうと考えています。

日本の食料基地といわれ、食料自給率（カロリーベース）200%を超える北海道だからこそ、全域にハンガーゼロの活動が知れ渡るように、ここからしかできないことに一人でも多く気づいていただきたいと祈りつつ、まず「わたしから」始め、同じ思いを持つ方が増やされればと願っています。

ハンガーゼロ実現のための新たな取り組み 「ハンガーゼロ・パートナーズ」 世界を変える担い手を募集します！

「ハンガーゼロ・アンバサダー」の主な役割

- 教会・学校の訪問
- 講演・報告活動
- 企業訪問（啓発と支援要請）等

「ハンガーゼロ・パートナー」の主な役割

- 募金活動（チャリティイベント等の企画）
- 広報活動（SNSによる発信と支援ネットワークの構築）
- プロボノ（職業等で培われた技術を提供する）
例：デザイン、写真、動画編集、翻訳、イベント運営他、等

「アンバサダー」は当機構からの任命、「パートナー」は面談などの諸手続きを経た上で決定させていただきます。お問い合わせは、東京事務所又は、tokyo@jifh.orgまでご連絡ください。

現在の
人数…

ハンガーゼロ・アンバサダー 7名
ハンガーゼロ・パートナー 3名
※お問い合わせは東京事務所まで



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在まで1570249ポイント(円)のご協力(6047件)がありました。募金はTポイント募金で検索

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

大阪北部地震で被災されました皆様へ お見舞い申し上げます

6月18日の大阪府北部地震により大阪府、京都府、兵庫県、奈良県で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。当機構は、地震翌日の19日、特に震度の大きかった高槻市、茨木市およびその周辺を2つのチームで訪問、被害状況の確認をしながら、片付け作業応援や水やパン缶、軍手やマスクなどの配布を行わせていただきました。

被災者への募金は、**郵便振替用紙に必ず「大阪北部地震」と明記ください。**



ボリビアのカラフルな小物入れ 財布や眼鏡、通帳入れ用として

サイズ: 横幅19cm 高さ9cm
 *販売数: 40個(色柄はおまかせください)
 *価格: 1点 800円、送料400円 合計税込1,200円
 2点1,600円、送料400円 合計税込2,000円
 3点以上のお求めで送料無料(一度に同一箇所へのお届け)
 *特典: チャイルドサポーターの方は 2点以上お求めの場合 送料無料でお届けさせていただきます。(会員番号をお知らせください) 収益の一部をJIFHの活動に寄付させていただきます。
【お支払いは後払い】
 郵便局払込で(株)キングダムビジネス口座へ。
【問合せ】 キングダムビジネス
 〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル402
 TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

8月 ファシリテータートレーニングin 関西

～こころとからだの飢餓問題を学びませんか～

8月27日から31日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプin 関西」(KBI 関西聖書学院内)の参加者を募集しています。キャンプでは、将来途上国で働きたいと願っておられる方、また世界の諸問題について知りたい方に「**飢餓とは何か**」、「**自分には何ができるのか**」を考える時間を持っていただけます。共同生活をしながら、専門的な講義とともに参加者同士でグループワークもして楽しく学びます。
特別講師: 酒井保 (ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン)

参加費3万円(食費・宿泊費込)※会場までの交通費は除く
 お申し込みは、JIFH 東京 03-3518-0781



サポーターのお申し込み欄 チャイルド&ハンガーゼロ

今すぐ各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。**
- ハンガーゼロサポーターとして協力します。**
毎月()円 (1円1,000円)
- 海外スタッフサポーターとして協力します。**
毎月()円 (1円1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。**
毎月()円 (1円500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。**
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。**

フリガナ 氏名: _____ 男・女
 〒 _____
 フリガナ 住所: _____
 (電話)
 ▼申込日: _____年 月 日▼NL 336号

FAX・072-920-2155

- 発行者 清家弘久
- 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
- Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
 eメールアドレス general@jifh.org
 フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>
- 募金方法 *各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
 ●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
 ●他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
 (広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 00Cビル517号室
 (東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
 TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
 TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
- U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
 TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。